お神籤と南海トラフ臨時情報

板寺一洋

(神奈川県温泉地学研究所)

今年の初詣、皆さんはお神籤を引きましたか？そして、その結果はどうだったのでしょうか？今年、私は見事に「大吉」を引き、いつにも増してとても気分の良い年始となりました。というのも、昨年(2024年)の初詣では「凶」を引き、^{げんなお} 験直しに引き直したらまた「凶」、2連続で「凶」という憂き目に遭っていたからです。

一般的にお神籤には「大吉」「吉」「中吉」「小吉」「末吉」「凶」の6種類の札が知られています。これらがそれぞれどのくらいの割合で神籤箱に入っているのかは寺社によって、あるいは時期によって異なるのかも知れません。最も単純には全て均等、つまりそれぞれの札が6分の1ずつ入っている場合が考えられますが、ほとんどの人が喜ばないであろう「凶」はさすがに少なめになってるのではないのかという気がします。その割合を全体の1/10ぐらいと仮定すると、ある人が2回続けてお神籤を引いたとして、その結果が2連続で「凶」である確率は $1/10 \times 1/10 = 1/100$ (1%) となります。

話を簡単にするため、お神籤を引く人は皆2回ずつ引くものとすれば、100人に一人ぐらい連続「凶」の人がいるということになります。私が初詣に訪れた神社では、例年、三が日に70万人ほどの参拝客があるそうです。そのうちの3割程度、およそ20万人がお神籤を引くとすれば、その1%にあたるざっと2000

人ぐらいは連続「凶」を引いていることとなります。もちろん実際の話はもっと込み入っているでしょうが、この見積もりはそれほど現実離れたものでないようにも思います。そう考えれば少しは気も楽になろうというものでしたが、昨年は少し事情が違いました。

なぜなら、2015年、箱根の火山活動が活発化し水蒸気噴火にまで至ったその年も初詣で「凶」を引いたことを思い出したからです。連続「凶」だったのがさらに気分を押し下げたのは言うまでもありません。もちろん私のお神籤の結果と箱根火山の活動具合とは何の因果関係もありませんが、お神籤に限らず、ある出来事Aと、偶然同じ時期に起こったまったく関係の無い出来事Bとが記憶の中で結びついていて、次にAと同じような出来事があると、出来事Bの再来を期待したり心配したりした経験のある方は少なくないのではないのでしょうか。

これと似て非なる事態が昨年発生しました。8月8日、気象庁が「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」を発表したのです。きっかけとなったのは、8月8日に日向灘でM7.1の地震が発生したことでした。お神籤なら1回目の結果が2回目の結果に影響することはありませんが、地震の場合、それなりの規模の地震が起これば、その付近での次の地震発生に向けて何らかの影響があるのではないかと感じるのは当然のことです。たとえば、2011年3月

9日に宮城沖でM7.3の地震が発生しましたが、東北地方太平洋沖地震(M9.0)が起こったのは、その2日後のことでした。話がそこまでなら、「凶」を引いて箱根火山の事を思い出した私の話と大して変わりませんが、「南海トラフ地震臨時情報」は地震発生の「確率」について検討され、それに基づいて発表されるものです。

2025年1月、地震調査委員会は南海トラフ地震の30年以内の発生確率をこれまでの「70~80%」から「80%程度」に引き上げましたが、それと同様の統計学的な考え方によれば、通常の一週間のうちに南海トラフ地震の発生する確率は0.1%程度と見積もられているそうです。一方、内閣府(2019)では、1904年から2014年までの間に世界中で発生したM7クラスの地震1437事例中、その発生以降7日以内にM8クラスの地震が発生したのが6事例あったことから、想定震源域内でM7.0クラスの地震が発生した場合(一部割れケース)、一週間以内にM8クラスの巨大地震が発生するのは数百回に一回程度(およそ0.5%程度)であるとしています。8月8日の日向灘の地震は一部割れケースに当たるとされ、そうすると一週間以内にM8クラスの巨大地震が発生する確率は0.5%程度となり、それが通常の一週間に対する確率(0.1%程度)より高くなることから「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されたというわけです。

今回の「臨時情報」発表を受けて、「臨時情報」そのものの考え方や発表を受けた防災対応のあり方などについて様々な問題点が指摘されています。たとえば石橋（2024）は「今回の臨時情報は科学的根拠が乏しく確度が低い」と指摘しており、そのポイントとして「大規模地震発生の可能性が高まったとする根拠は全世界の地震の統計データだけである」ことや、「8月8日の日向灘の地震が物理地学的に想定震源域にどう影響すると考えられるか説明が無い」ことなどを挙げています。残念ながら私にはそうした議論に科学的な見解を持って加われるほどの力量はありません。しかし、今の地震学の知見では確度の高い地震の発生予測は不可能であり、たとえ発生確率が数値で示されたとしても、それはかなり不確実なものであると考えるべきでしょう。

これから南海トラフ地震が本当に発生するまでの間、私たちは何回か

「臨時情報」の発表に直面することだと思います。発表する側にはもっと丁寧でわかりやすい説明を尽くすことが求められるのは言うまでもありませんが、受け取る私たちもその意味をよく理解する必要があります。何より南海トラフ地震は不意打ちで起きる可能性の方が高いとされているのです。そのことを私たちは肝に銘じなければなりません。

この原稿を書きながら、高校時代に修学旅行で訪れた京都の3つの寺社で連続「凶」を引いたことを思い出しました。その後には何か不運に見舞われたのかどうかもはや覚えていませんが、先に述べた見立て通りとすれば、その確率は1/1000(0.1%)、どこかで見た確率と同程度ということになります。今回、「確率」というキーワードだけで、国民にとっての一大事である南海トラフ地震とお神籤とを並べて話題にしてしまったことについてのお叱りは甘んじてお受けしますが、南海トラフ

地震は起こり得るものであるということを変えて実感させられる機会となりました。

参考文献

石橋克彦（2024）2024年8月8日に発表された南海トラフ臨時情報の問題点，日本地震学会2024年度秋季大会講演要旨，S23-06.

内閣府（2019）南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン【第1版】令和3年5月（一部改訂），https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/honbun_guideline2.pdf（2025年2月24日閲覧）